

下北地区統合校開設準備委員会（第3回）概要

日時：令和7年10月27日（月）

13:30～14:40

場所：むつグリーンホテル

白鳥の間

<出席者>

○委員

山本 隆悦 委員長、伊藤 文一 副委員長、野呂 政幸 副委員長、
平内 真一郎 委員、又村 彰 委員、佐々木 一浩 委員、山川 隼 委員、
吉田 成人 委員、阿部 謙一 委員、濱中 亮輔 委員、畑中 祐美子 委員、
成田 真紀 委員

○オブザーバー

県立大湊高等学校

畑中 俊光 教頭、山田 一二美 事務長、軽部 和佳子 教務主任

県立むつ工業高等学校

麥澤 美穂 事務長、加藤 始 教務主任、坪 大輔 設備・エネルギー科主任

1 開会

2 事務局説明

(1) 下北地区統合校の校舎等整備方針について

■ 事務局が資料1により、下北地区統合校の校舎等整備方針について説明した。

(2) 第2回下北地区統合校開設準備委員会における主な意見

■ 事務局が資料2により、第2回下北地区統合校開設準備委員会における主な意見を説明した。

3 意見交換

(1) 校名案の方向性について

■ 事務局が資料3により、県民等から提案があった校名案の取扱いについて協議し、その結果及び各委員があらかじめ提示した統合校にふさわしいと思う校名案候補、意見募集結果を基に協議し、校名案を3～5案に絞り込むこと、県民等への意見募集結果を説明した。

また、資料4により、校名案候補に対する委員からの意見について説明した。

■ 委員長が各委員に対し、県民等から提案があった6案を校名案候補の検討対象とするか意見を求めたところ、次のような意見があった。

○ この6案についても協議の対象としてはどうか。

■ 委員長が県民等から提案があった6案を校名案候補の検討対象とすることを確認し、委員から了承された。

■ 委員長が各委員に対し、どの校名案候補に絞り込むか意見を求めたところ、次のような意見があった。

○ 資料4において多くの委員が推している、2番、3番、6番、7番の校名案候補としてはどうか。

○ 委員の賛同が多い校名案候補が良い。

○ 前出の意見で良い。

○ 3案から5案に絞るということなので、前出の4案で良い。

○ 前出の意見で良い。PTA会員の保護者からは、覚えやすい校名、短い校名が良いのではないかという意見があった。

○ 県民等から提案があった6案の中から多数決で決めてはどうか。

■ 委員長が委員が推す4案のほか、県民等から提案があった6案から挙手による多数決で1つ選ぶこと、適切なものがない場合は挙手は不要であることを確認し、委員から了承された。

■ 委員の多数決により、県民等から提案があった6案のうち、「むつみらい高等学校」を校名案とすることに決定した。

〔大湊高等学校：0人、大湊総合高等学校：0人、快風高等学校：1人〕
〔下北工科学園高等学校：0人、むつ高等学校：0人、
むつみらい高等学校：3人〕

■ 委員長が「下北総合高等学校」、「むつ大湊高等学校」、「むつ大湊総合工科高等学校」、「むつ総合高等学校」、「むつみらい高等学校」の5つを下北地区統合校の校名案とすることを確認し、委員から了承された。

(2) 校訓・校章・校歌の方向性について

■ 事務局が資料5により、学校関係団体、産業関係団体等との情報交換等における意見を踏まえ、協議することを説明した。

①校訓の方向性について

■ 委員長が各委員に対し、校訓の方向性について意見を求めたところ、次のような意見があった。

○ 新たな学校ということで、未来を見据えて新たに制定した方が良い。

- 委員長が校訓については、新たに制作するという方向性にすることを確認し、委員から了承された。

②校章の方向性について

- 委員長が各委員に対し、校章の方向性について意見を求めたところ、次のような意見があった。
- 新たな校章が良い。

- 委員長が校章については、新たに制作するという方向性にすることを確認し、委員から了承された。

③校歌の方向性について

- 委員長が各委員に対し、校歌の方向性について意見を求めたところ、次のような意見があった。
- 新たな校歌が良い。

- 委員長が校歌については、新たに制作するという方向性にすることを確認し、委員から了承された。

④新たに制作する場合の方法について

- 委員長が各委員に対し、新たに制作する場合の方法について意見を求めたところ、次のような意見があった。
- 先日、むつ市にゆかりのある作曲家にお会いした際、校歌のことを話題にしたところ、「地域のために協力できることがあるかもしれない」と話していたので参考としていただきたい。

- 校歌は専門の方に依頼すれば良いのではないかという意見をいただいた。

- 校歌について、こどもたちから校歌に入れてほしい言葉を募集し、その言葉とともに地元や青森県を代表する方に依頼することも考えられる。

- 校訓や校章を在校生に考えてもらうのはどうか。

- 校訓を生徒一人一人に募集するのではなく、両校の生徒会で考えてもらう方が良いと思う。校章のデザインを生徒に募集することは考えられる。いずれにしても、生徒に募集するのであれば、統合校のイメージをきちんと理解してもらう必要がある。

- 今後設定するスクール・ポリシーとの整合性も考慮する必要があるため、校訓を生徒に募集するのは馴染まないと思う。

- 委員長が当委員会の意見を踏まえ、開設準備室において検討を進めていくことを確認し、委員から了承された。

(3) 部活動の方向性について

- 事務局が資料6により、下北地区統合校検討委員会からの要望、学校関係団体、産業関係団体等との情報交換等における意見を踏まえ、協議することを説明した。
- 委員長が各委員に対し、統合校に特に引き継ぎたい部活動があるか意見を求めたところ、次のような意見があった。
- 統合対象校における部活動を全て引き継いでもらいたい。また、新たな部活動の設置も検討してほしい。
- こどもや保護者等が統合校に期待するものとして部活動も含まれると思う。こどもたちのために選択肢がたくさんあった方が良いのではないか。
- むつ市では、今年度から中学校の部活動がむつ☆かつに移行し、部活動の選択肢が増えたが、中学生の半分程度が加入していないという実態がある。統合対象校での部活動を統合校でも設置してほしいが、入部しない生徒の方が多くなるのではないかと思っている。多くの部活動を設置するとしても、愛好会としての活動や休部になることも想定される。
- 部活動の活動場所についても生徒に不都合が生じないように配慮してほしい。
- 委員長が統合対象校における全ての部活動を引き継ぎつつ、新たな部活動の設置を含め、開設準備室において検討を進めていくことを確認し、委員から了承された。

(4) 特色ある教育活動や総合学科と工業科の連携を踏まえた施設整備の方向性について

- 事務局が資料7及び8により、どのような施設設備が必要であるか協議することを説明した。
- 委員長が各委員に対し、特色ある教育活動や総合学科と工業科の連携を踏まえ、どのような施設設備が必要であると考えられるか意見を求めたところ、次のような意見があった。
- 資料には記載されていないが、建物に関することを含め総合学科でも必要なものはたくさんある。
- 基礎基本を確実に身に付けられるような設備、先端の工業技術に触れることができる設備が必要である。また、地域の産業関係者が製品開発や実験をすることができる機能を統合校に持たせることができれば、魅力ある学校になるの

ではないかと思う。

○ 県内で統合校にしかない設備があれば良いと思う。各県立高校の設備を相互利用することができれば、県立高校の強みとして公立離れを防ぐことができると思う。

■ 委員長が特色ある教育活動や総合学科と工業科の連携が効果的なものになるよう、当委員会の意見を踏まえ、開設準備室において検討を進めていくことを確認し、委員から了承された。

4 その他

ワーキンググループによる制服及び教育課程の検討について

■ 委員長がワーキンググループによる制服及び教育課程の検討について野呂副委員長に対し、状況の説明を求めた。

○ (野呂副委員長) 制服については、11月6日に業者によるプレゼンテーションを実施し年内に業者を決定する予定である。

教育課程については、今月の初めに1回目の会議を開催し、今後の進め方の共通理解を図った。今後、総合学科と工業科の連携、教育課程の案などを具体的に検討していく予定である。

5 閉会